

市町村における母子保健事業の効率的実施に関する研究

地域母子保健事業の効率化に関する総合的研究

協力研究者 小野寺 伸夫*,曾我 晃一*,深谷 志成*,岡安 俊明*,加藤 邦夫**

石川 英雄***,小山 修****,齊藤 進****,小野田 薫*****

要約 市町村における母子保健事業の効率化について、基本となる概念設計を主体とした研究を方向づけた。そのため、「いま何故、市町村母子保健事業の効率的実施が問われるのか」の課題を設定し、地域科学、政策科学、情報科学等の視点から背景構造および動向について分析を試みた。さらに、概念設計に必要な基本項目、課題点、効率的実施の方針および今後予測される諸点の検討を通じ、温もりのあるパイロット地域モデル研究の基礎的条件を明らかにした。

見出し語：地域母子保健、効率化、温もり、概念設計、

研究方法：本研究を進めるに際し、「いま何で、市町村母子保健事業の効率的実施が問われみか」の課題を設定し総合的視点から研究マスタープランの検討を行った。研究マスタープランに基づき文献情報の分析とともに有識者の意見交換を通じ、母子保健、法律制定、効率的実施を巡る背景構造について検討を行った。同時に、政策実施、効率運営、保健技術の動向について考察を深めパイロット地域モデル研究の基礎的条件について総括討議を行った。

結果：わが国の母子保健は人々の共通の願い

もある温もりのある生活の基本として発展をてきた。母子保健行政は国民の英知と的確な行動を通じ、政策の根幹に位置づけられ国民生活に大きな影響を与えてきた。

今日、わが国が国際社会における高い位置づけを持つ表現の一つとして母子保健に関する諸指標の水準の高さが上げられてきた。

しかし、政策発展の過程において母子保健に関する行政責任のあり方を巡って位置づけを異にしてきた。時には保護救済、富国強兵、社会福祉、人権尊重、地方自治など政策の

*武蔵丘短期大学 **（財）仙台市健康福祉事業団 ***（株）富士総合研究所

****恩賜財団母子愛育会 *****順天堂大学医学部

重点の置き方によって責任所在の転換を余儀なくされてきたことは否定できない。

母子保健について基本となる考え方や責任のあり方について普遍妥当性を求めることは当然なことである。

人口構造の高齢化・小子化、女性の高学歴化、M字型人生と言われる女性社会進出、婚姻の機会の変容、多様な保健情報、地方自治体の行政機能の多次元化、保健技術の向上等母子保健を巡る背景構造は大きく変容している。

一方において、母子保健について主体をとすれば母と子におき、サービスの受け手として位置づける傾向がある。

このことから地域政策においても母子保健を消費的構造に位置づけ、総合的発展計画からの路線が必ずしも明確ではない。

しかも国民生活に極めて重要な路線としてのサービスの受け手である生活者の立場を重視し、生涯を通じた健康づくり体制の整備と地方分権を推進する旗印のもとに地域保健法が制定され、母子保健法の改正がなされた。

それらの中で「いま何故、市町村母子保健事業の効率化が問われるのか」について自問自答せざるをえないことは確かである。

本来、法制定や改正以前に地方自治体の自主性とは何か、広域自治体（都道府県）と基礎自治体（市区町村）の受けとめの差異はどうかを考察した。母子をサービスの受け手としてのみ効率化が考慮されて良いのか、ニーズに対応する計画と行政資源をどのようにとらえているのか、機関委任事務と団体委任事務の関係はどうなのかについて検討を試みた。

母子保健を巡る環境は多様に変化する中で新たな課題を抱えているが、他保健事業に比し比較的完成度は高いと見られている。

基礎自治体への権限委譲に伴いより完成度を高め新たな展開として、次の基本項目を通じた課題点、効率的実施方針および今後予測される諸点について総括的考察を深めた。

1 母子保健行政の相対的な低下傾向及びプロダクション・ヘルスの多様な問題点。

2 地域保健法制定等に伴う基礎的自治体行政責任の増大と保健関係業務調整の必要性。

3 一次・二次・三次機能のネットワーク化とハイリスク群の情報管理システムのあり方。

4 サービスの有効性・能率性に関する効率観及び効率化測定の指標・影響要因の分析。

5 母子保健発展に関する健康教育及び人材開発に必要なリーダーシップと支援機構整備。

考察：母子保健事業は本来親子家族ともに地域の有効な社会資本であり、行政制度の変革のみで効率化を論ずべきでない。

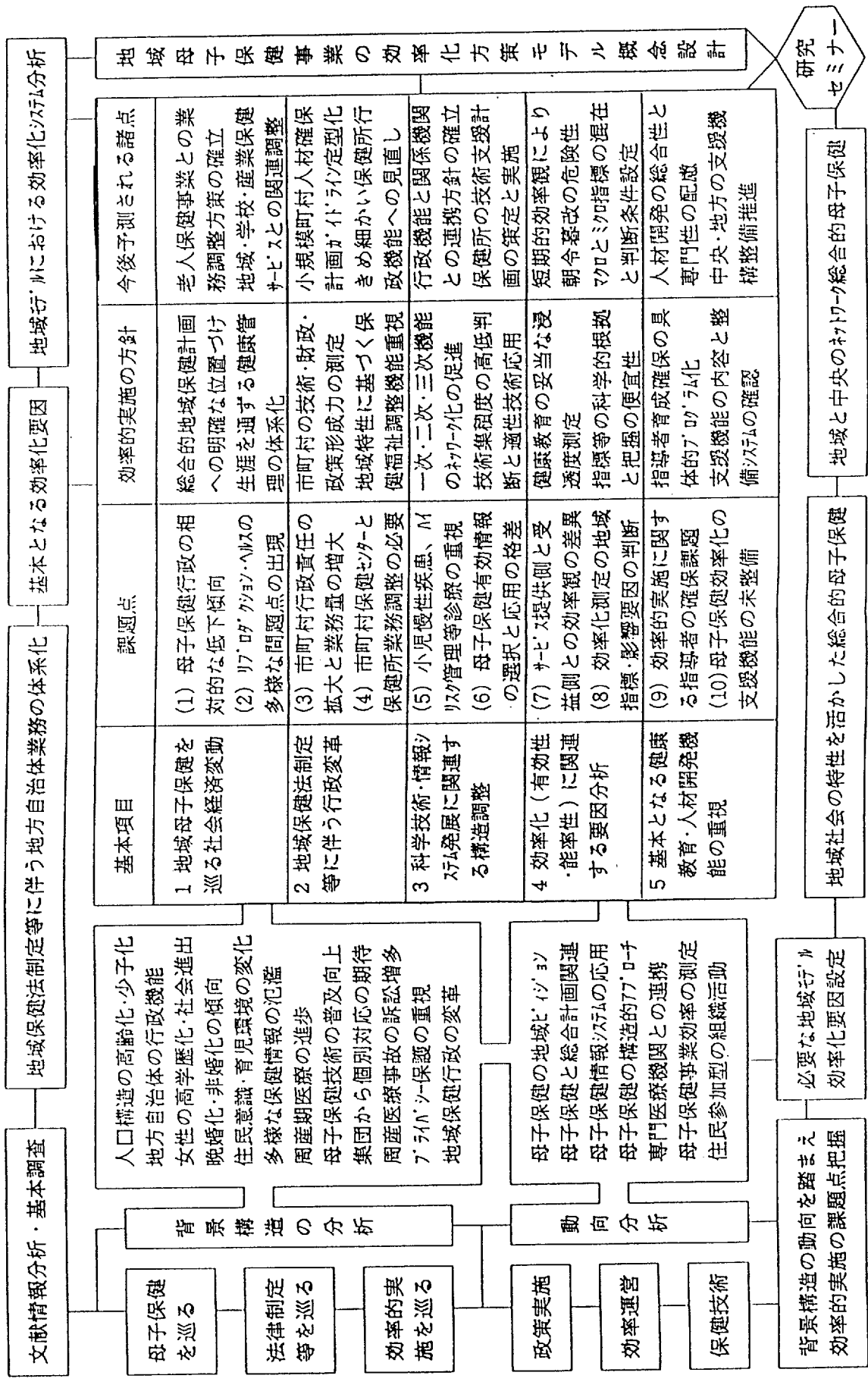
地域の実情に応じた温もりのある、市町村における母子保健事業の効率的実施をより可能とする、ガイドラインの基本構想を設計する必要がある。そのためには、地域モデルを対象とした継続的実証調査を包括する総合的な検討が今後一層必要視されている。

文献：

(1)昭和61年度地域母子保健の向上に関する衛生行政学的検討、小野寺伸夫他、1986

(2)平成元年度、2年度、3年度母子保健事業の効率的運用に関する研究、小野寺伸夫他

1989,1990,1991



Comprehensive study concerned with the efficiency of maternal and child health activities.

Nobuo Onodera,
President, Musashigaoka College

Abstract:

As concerns the efficiency in the area of maternal and child community health activities in each local areas, we have determined the direction for the basic concept of efficiency approach.

Firstly, we have determined the study matrix on the base "Why is this efficiency being reconsidered these days?" and then we have attempted to analyze the background organization and its practice in view of local resources, policy concept, information availability and so on.

Secondly, we have clarified the fundamental situation of a model study applicable to a user-friendly pilot area, considering several cases such as basic items needed to approach the concept, the issue, the efficiency of present policy, and such difficulties as may be predicted in the future.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 市町村における母子保健事業の効率化について、基本となる概念設計を主体とした研究を方向づけた。そのため、「いま何故、市町村母子保健事業の効率的実施が問われるのか」の課題を設定し、地域科学、政策科学、情報科学等の視点から背景構造および動向について分析を試みた。さらに、概念設計に必要な基本項目、課題点、効率的実施の方針および今後予測される諸点の検討を通じ、温もりのあるパイロット地域モデル研究の基礎的条件を明らかにした。